

TOKO NO.148 2007.11.9 どの子ども地域の学校へ！公立高校へ！東部地区懇談会
連絡先・春日部市大場690-3 Tel 048(737)1489 Fax 048(736)7192
メール：waraji@muf.biglobe.ne.jp ホームページ：<http://members.at.infoseek.co.jp/TOKOnews/>

ミニおしゃべり会のお誘い

10.14出合い・交流・相談のひろば (TOKOおしゃべり会2000秋)は家族そろって参加された方も多く、それぞれに楽しく、熱のこもった一日を過ごしました。ただ、学校や地域行事などと重なって参加できなかった方もけっこうおられたようです。

今度は平日の昼間にミニおしゃべり会を企画しました。情報交換に、相談に、またグチを言い、ぜひお出かけ下さい。

と き:12月6日(木)

10:00～15:00

ところ:あしすと春日部

(昼食を各自持参でお越し下さい。遅く来られたり、早くお帰りになってもかまいません。参加費は無料。介助・保育必要な方は事前にご一報を。



□…午前7時30分～8時30分は、車両通行禁止

総合福祉センターあしすと春日部
344-0067

春日部市中央2-24-1
電話:048-762-1080

FAX:048-762-1083

写真は、10月14日(日)に越谷市中央市民会館で開いた「TOKOおしゃべり会2007秋」出合い・交流・相談のひろばに同時進行で行なった街の探検ツアーおしゃべり会関連記事は次ページから。



出会い・交流・相談のひろば を開きました

(TOKOおしゃべり会2007秋)

準備にかかわった皆さんの一言

今回は、いま学校に通っているお子さんをもつ方を
はじめ、さまざまな人たちに準備をしていただきました。

一緒に生活する大切さ

清水 泰代(しみずやすよ)

越谷市せんげん台の清水です。子供は4年生と2年生の男の子、二男の2年生の子が自閉症です。

去年は大袋北小の普通学級に在籍し、今年から大袋小の特学に転校しました。近所の子たちが、二男の存在をわかっていてくれるのは、去年同じ学校に行っていたからです。

転校してしまって、これからどうやってかわりを持っていくか考えてしまうのですが…学校以外で接点を持つのは難しいです。

どの子も地域の学校で一緒に生活する大切さを感じています。



こちらは親・教員などが中心

「いろんな子がいて当たり前！」

清家 亜由(せいけあゆ)

草加市立稲荷小学校 教員。 埼玉大学教育学部総合教育科学学科卒業 教員4年目。 現在3年生担任
教室は、いろんな子がいて当たり前です。だからこそ子どもたちが高めあって 大事なものを学ぶと思っています。

まだまだ経験が少なく、知識も浅くてお役に立てるか心配ですが、有意義な会にしたいと思っています。私も勉強させていただきたいと思います。よろしく願います。



子ども達は障害者メンバーや介助者等と街の探検

そこにいること

太田 妃早子(おたひさこ)

こんにちは。越谷に住んでいます太田妃早子です。子供は小学校2年生で、ダウン症の男の子です。我が家では赤ちゃんの頃から、できる限り普通の子の中で!! という思いで育ててきました。

2才から週1回就園前の子のための集まりに、子供だけで幼稚園へ行き、みんなと遊び、お弁当を食べ、3才からは保育所へ入所しました。そして、去年4月、学区の小学校普通級へ入学し、毎日元気に楽しく通っています。

いろいろ悩みは出てきますが、子供がお友達の中でとても楽しそうにしていること、そこにいることが本人もまわりの子供たちも普通であたりまえとってくれること、そして何よりみんなからの刺激を受けすぐ成長した姿を見ると、とてもうれしく、感動と感激の日々を送っています。

出会い・交流・相談のひろば (TOKOおしゃべり会 2007秋)

準備にかかわった皆さんの一言

今回は、いま学校に通っているお子さんをもつ方をはじめ、さまざまな人たちに準備をしていただきました。

踊ることが大好き

藤ヶ谷 理江(ふじがやえ)

東京生まれの岩槻育ち。現在、春日部市増富に、実母、夫、娘2人と5人で暮らしています。下の娘の郁美は踊ることが大好きなダウン症。養護判定を蹴って普通学級に入学し、早くも3年生になりました。先生やお友達に恵まれ、マイペースでフリーダムなスクールライフをエンジョイ(?)しています。

また2年ほど前、母娘で「藤華連春日部ソーラン」に入会しました。毎週土曜日の午後、よさこいソーランで汗を流しています。(ただし!母のダイエット目的はまったく達成されていません...)今月の21日(日)、さいたまスタジアムでおこなわれる「よさこいinさいたま」に出場予定です!



現在は生きております

樋上 秀ひがみ ひでし

1964年生まれ 越谷市東越谷在住
64年は東京オリンピック開催、東海道新幹線開通の年。母親の郷である広島県福山市で仮死状態の逆児で出生。脳性小児マヒ。
父、母、弟の4人家族 87年から越谷でひとり暮らし
89年、母は52歳で他界(テポドンより強い、他人の子も叱る母でした、けっしてキレるではなく叱るです)

趣味 旅 主に鉄道で日本国中。 詩を書く事
66年、春日部市武里団地入居(生粋の団地っ子)
71年、私立あゆみ幼稚園入園(鈴木園長ご存命なのかな)樋上は現在は生きております
72年、市立谷中小学校入学(一年遅れで入学) 78年、市立谷原中学校入学
81年、中学卒業を機にわらじの会に(初の作業は橋本画伯とバザ - の為の捨て看板拾い)

母の信念は、車依存社会はダメ、歩けの精神。テレビ、ク - ラ - 、タバコを嫌う事でした。
息子二人は個人的事情により愛煙家。僕も弟もセブンスター - を一日一箱あまり。テレビは見ないク - ラ - の無い生活です。けど当然ではあるのだがタバコだけ槍玉になっているのには疑問。車依存社会には非力でも脱却に向けて力を注いで行こうと感じております。

「はい、ここからは地域で～」

原田 真弓(はらだ まゆみ)

越谷市在住。 親より大きくなった息子は、養護学校高等部2年生。
「お子さんは障害児です。もう普通には幼稚園も学校も行けませんよ。」「とにかく集団に入れなさい。」そんな言葉から始まった障害児人生。でも、集団の中では過ごせなかったし、幼稚園も学校も普通に行けたよ!!
あれは、みのり学園からの帰り道、ちょっと仲良くなったお母さんと話をしていたら、「障害児でも普通学級に行けるよ! そういう人達が集まっておしゃべり会をやってるから行ってみる?」と言われ、オエヴィスでやっていたおしゃべり会に参加するようになりました。「市役所の地下でもTOKOって言うおしゃべり会をやってるから行ってみたら?」と教えられ、ドキドキしながらドアを入ったのが10数年前でした。参加したり、しなかったりでしたが、最近はずいぶん参加するようになったかな?(^^)

こんな繋がりの中で息子は、みのり学園から普通の私立幼稚園へ行き、小学校も校区の普通学級で6年間過ごしました。そのまま校区の中学校へ……と思っていたのですが、考える事もあり学区外の特学へ入りました。そして現在は養護学校。全部経験してきました。いい事も嫌な事も経験しましたが、普通学級は楽しかったですよ～ でも、特学や養護学校にいると「守られた生活」で楽ですが、卒業後を考えるとちょっと怖いかな～? 「はい、ここからは地域で～」とポンと放り出されたって、どうしたらいいの～?

出会い・交流・相談のひろば (TOKOおしゃべり会 2007秋)

準備にかかわった皆さんの一言

今回は、いま学校に通っているお子さんをもつ方をはじめ、さまざまな人たちに準備をしていただきました。

二つの立場から

竹迫 和子(たけさこ かずこ)
養護学校義務化からかれこれ30年、障害児の高校入学運動が始まってから20年が経とうとしている。義務化の成果はもっとも教員の意識にあるのだろう。「障害のある子には別の場で専門の教育を」という考えが染み付いて抜け出せない。支援籍で年に2、3回小中学校に出て行くことにもクレームがついたりする。特別支援教育の方針である専門性の向上とか、特別支援学校のセンター的役割などにより、ますます熱心に障害について研修し、教材研究や授業の準備をし、進路指導をし、小中学校の相談にもものつて、地域活動にも参加し、熱心過ぎてやり過ぎて疲れ果てて、そのおかげで(?)入学者はほとんどんふえている。養護学校に対する理解は広がっているが、ノーマライゼーションはどこへいくのだろう。

一方、障害児の高校入学についてはいまだに定員内不合格にされたり、高等養護学校や高校内分校ができて分け続けられている。「どの子も地域の公立高校へ」という連絡会の名前はなんと過激で根本的かとあらためて思う。私立じゃなくて公立、どの子もなんて余計なお世話とを感じる人もあるかも。障害のある子だけでなく、なかなか受け止められない子こそ公教育で受け入れていかなければならないという考え方に立っている。教育をめぐる状況は逆に進みつつあるが、だからこそそのことをだいにしたいと思う。



あたりまえに近所の学校・高校で子どもと共に生きてきた体験を語る中村順子さん

養護から地元中学へ、そして就職、結婚

日吉 孝子(ひよし たかこ)

- ・1954年 北海道生まれ
- ・5歳のとき上京し武蔵野日赤病院のリハビリ施設に入所
- ・日赤の主治医の勧めで一年遅れで光明養護学校に入学、入寮
- ・小学校4年の時に、はからずも家の裏が小学校、歩いて500mほどの所に中学校という立地の所に引越す。これを機に長年家から離れた生活を送っていて家族と暮らしたかった事もあり、また寮の中・高等部の先輩たちから養護学校卒の就職は難しいと聞かされていたので、それまでは考えた事もなかった地元に通いたい!という、気持ちに火がついた。
- ・地元の小学校への転校を希望したが、両親(養護学校にいれば卒業時に障害者を対象とする求人が養護学校ならくる可能性が高いという理由で)も担任(普通の学校でやって行くには重度すぎるという理由で)も反対したが諦められず、5年生の時に両親を説得し転校希望を打診したが、わざわざ苦労しに来ることはないかと校長に断られた。
- ・再度中学入学時にチャレンジ。何度かの話し合いの結果、地元中学への入学が認められた。
- ・高校、大学に入学。大学は1年で中退。
- ・障害者の職業訓練校に1年半在籍後、コンピュータのリース会社に就職したが人間関係で悩み2年半で退職。その後、2社に転職。
- ・結婚・出産・子育てのため専業主婦として10年を過ごす
- ・再就職し、8年間勤務。離職1年半後、車椅子の生活となる。
- ・5年前に離婚し、群馬から現在の越谷に・・・

出会い・交流・相談のひろばに参加して

感じたこと あらかると

10.14 TOKOおしゃべり会に参加して 木寅 雅絵

「就学に悩んでいるようだったら、今度、おしゃべり会に参加してみる？」と声をかけていただき、幼稚園のお友達数名と参加しました。

あゆみ幼稚園にお知らせのチラシを掲示していただきたくて、園長先生にお願いした時に、

「もう少し元気だったら、参加して、お話をさせてほしいくらいです。がんばって下さいと伝えてください」

とおっしゃってくださいました。

実際、参加してみて、率直に「スゴイ！」と感じましたが、私にとっては難しいことと思いました。きっと、「そんなことないわよ」と一笑されそうですが、「共生と自立」、両立させるのは大変に思います。

「大変だ！大変だ！！」と言いつぎず、じっくり、ゆっくり、うちの子にあった、「共生と自立」の方法をみつけていきたいと思えます。

おしゃべり会は、そういうことに気付けた、良いきっかけとなりました。



TOKOおしゃべり会10.14の感想

上原 佳寿子

参加者が各自、熱く状況や想いを語っていたことが印象的でした。

サプライズ！は学校の先生や支援員の方のお話もうかがえたことです。

いろいろな立場の人や地域の人が集まることは、とても有意義だと思えました。それぞれ状況に違いはあっても、学校全体で子供を受け入れていく姿勢が大切なのだとも痛感しました。

皆で地道に働きかけていくことの重要性を感じました。

壁を感じました

小口 高寛

その節は参加させて頂き、誠にありがとうございました。私は就学前の分科会に参加させて頂きました。皆様と話をしたり、聞いて感じた事は私は身体に障がいを持つ子の親ですが、ほとんどの方は知的の障がいを持つ子の親の方たちだったので、なんだか少し壁を感じました。それはただ、身体障がいだからとか、知的障がいだからとかといったような事ではなく、母親の中に父親がひとりいただけのことだと思えますが...

話を聞いて思った事は説得が多かったように感じた事です。「なんだ、この分科会はノーマライゼーションを唱える宗教の勧誘、またはノーマライゼーションを売る商法か？」と思いました。それともうひとつ、『健常者』とか『障がい』とかいう言葉が耳に残りました。「何？健常者の中に入れて、障がい者ということを感じたくないということ？」といった様な事も思いました。まあ、それは地域の学校に通学させたい、又、卒業させる事のすばらしさ、地域の学校へ通う事の必要性を一生懸命伝えたいという熱意の表れも感じますが、私は地域の学校へ通う事も養護学校へ通う事もどちらも賛成です。ただ、分科会でおしゃべっていた、地域の子供たちに存在を知ってもらう事も、交流もとても大切な事だと思えます。

障がいをもつ子でその子本人が地域の学校へ行きたいというなら、行かせてあげたいと思えます。ただ、自分でその意思を表現する事が困難な子供たちは親が判断する事が多くなると思いますが、私は自分の子であろうと人は人の心を100%わかる事は難しいと思えます。近づく事はできるとは思えます。だからこそ、この様な場で様々な方たちと言葉を交えたり、いろいろな所へ出て、勉強する事は大切だと思えました。親のエゴをおしつけるのではなく、子供が、どこにいた方が今一番良いのかと言うことを客観的に感じられたらとも思いました。

最後に「学校は勉強するところで、そこに障がいを持つ子供が入ったからといって子供が変わる事を期待するのは違う」という事をおっしゃった方がいらっしゃいましたが、本当にその通りだと思えました。よく子供達の中にハンデを持った子供が交わると思いやりが育つといった様な事を聞いた理、私自身もそう思っていた面もありましたが、それは違い、学校は勉強する場で、ただ、必要なのは同じ空気を吸っているという事を思うだけでよいのかなあ、と思いました。

これからも、会には参加したいと思えますし、これは自分自身の生涯教育でもあり、又、「親の背を見て子は育つ」と聞いた事がありますが、もし、それが本当の事ならば、自分自身も成長しなくてはと思えました。

今後とも、参加した際には宜しくお願い致します。

P.S 内容が脱線している点もありますが、御了承の程、宜しくお願いいたします。

(〒343-0002 埼玉県越谷市平方1351-4 <TEL.FAX> 048(971)17

出会い・交流・相談のひろばに参加して

感じたこと あらかると

10.14 TOKOおしゃべり会の感想

藤ヶ谷 理江

「義務教育中」のグループに参加しました。学校の先生や支援員をやっている方の参加もあり、有意義な話し合いになったと思います。また、このグループはご両親での参加が多く、特にお父さん方がとても熱心に発言されていました。

皆さんのお話を聞いて、私自身もそうですが、普通学級であれ、特学であれ、入学してからがまた大変！ということです。“担任や支援員に丸投げ”ではなく、“学校全体で子供を見ていく”という姿勢がどの学校にもあれば、もう少し良くなるのになぁ...というのが率直な感想です。それにしても、思っていた以上に学校によって対応に差があるというか、ありすぎると思いました。そしてそれは、やはり市の姿勢が反映している、ということです。

なんだかんだと結局分けられていく障害のある子どもたち...翻弄される親たち...解決に近道はありません。だからこそ、TOKOの活動を続けましょう！広げましょう！子供たちの学校生活が、未来が、少しずつ良くなるように。

特別な場の膨張・ふりわけの強化 くつきり

分ける教育「拒否」は常に1/4超

数字が語る

埼玉の教育

	小中学校全児童生徒数	特殊教育小中学校児童生徒数	全児童生徒中の特殊教育児童生徒	就学判断件数の増加(1999=100)	特殊教育(盲ろう養護・特学)判断	特殊教育「拒否」件数
1988					2183(56.5%)	846(38.8%)
1998	624580	5338	0.85%			
1999	614990	5505	0.90%	100	2538(72.1%)	667(26.3%)
2000	610450	5624	0.92%	109	2723(71.3%)	740(27.2%)
2001	605330	5821	0.96%	108	2707(70.9%)	681(25.2%)
2002	602950	5907	0.98%	113	2689(67.6%)	691(25.7%)
2003	599740	6126	1.00%	116	2774(67.9%)	737(26.6%)
2004	599468	6457	1.08%	119	2796(66.7%)	721(25.8%)
2005	599548	6580	1.10%	130	3032(66.3%)	799(26.4%)
2006	597571	6939	1.16%	138	3162(65.3%)	847(26.8%)

(埼玉県教育局の統計=翌年度の5月1日時点の集計の数字=より山下が作成。全児童生徒数は一部概数。)

上の表からわかるのは、この9年間、「若い県」といわれた埼玉でも子どもの数が減り続けているのに、盲ろう養護学校小中学部と特殊学級にいる子どもの数はどんどん増えており、義務教育段階の子どものうち特殊教育(通級はのぞく)の場にいる子どもの割合が、0.85%から1.16%に急膨張した。その背景に市町村教委による「就学判断」(ふりわけ)の件数の大幅アップがあり、8年間でなんと1.38倍になっている事実がある。しかも、その判断の7割前後が常に「盲ろう養護学校・特殊学級が適切」という「特殊教育判断」になっている。

ではそうして「特殊教育判断」が下された子どもとその親が判断に従わず、あえて通常学級にこだわって就学した件数はどう推移したのか。ふりわけ強化による特殊教育判断の強化にもかかわらず、常にその1/4以上は特殊教育を「拒否」(1988年ごろは県教委自らがこう呼んでいた)している。

県教委は「ノーマライゼーションの理念に基づく教育の推進」を掲げ、段階的に共に学ぶ教育をめざすと称している。担当者達は本気でそう信じている。しかし、通級や交流、さらには支援員までをひとくくりにした「特別支援教育」というラッピングをはがして、特殊教育の本体(養護・特学)を見ると、別の場に分ける道が急拡大し、共に学ぶ道から遠ざかっている。こんな環境悪化にもかかわらず、あたりまえに近所の子供たちと一緒にと特殊教育の勧めを拒否する親子は減っていない。「ノーマライゼーション」を語るなら、まずこの実態把握から始めるべきだ。

障害があっても

みんなと一緒に学びたい

神奈川県を取り組みから～

今年度から始まった特別支援教育で、障害のある児童・生徒の教育を受ける環境は、また人々の意識はどのように変わっていったのでしょうか？

言葉が柔らかくなる反面、障害によって細かく分離されていく状態が深刻化しているように思えます。

大人の意識の中に根付いている「適格者主義」が子どもたちを苦しめていないか？ 子どもたちは何を望んでいるのか？

教育の中心にあるべき子どもたちの現状と、障害があっても分け隔てられることなく受けられる教育を求めて、今回は神奈川の取り組みに学びたいと思います。

日時 2007年11月11日(日) 午後 1:30 ~ 4:00

場所 さいたま市浦和コミュニティーセンター

(浦和パルコ10階) 浦和駅東口前

講師 神奈川「障害児」の高校進学を実現する会

柳沢 恵美子 さん

お問合せ： みんな一緒に普通学級へ・埼玉連絡会 どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会

電話 048-737-1489(山下) 電話 048-942-7543(竹迫) FAX 048-736-7192

2007年10月29日

埼玉県教育委員会教育長様
埼玉県教育委員会教育委員長様

どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会
代表 斉藤 尚子
埼玉障害者市民ネットワーク
代表 野島 久美子

11月21日(水)14:00~17:00 県教育局交渉
会場:北浦和・労働会館 参加したい方は山下まで

要 望 書

障害のある子どもたちの高校入学の実現に向けてご尽力いただき、ありがとうございます。

早くも2学期半ば、高校もみんなと一緒に学びたいと切望し、来年の受験に向けて学校見学や体験、説明会への参加、また高校長との話し合いなど準備を進めているところです。

さて、前回(7月20日)の話し合いでは、障害のある生徒を受け入れていくための具体的な改善策は示されず、「個別に対応」という回答にとどまりましたが、高校現場のあること、東京・千葉・神奈川ではすでに受け入れ策が執られているにもかかわらず、埼玉では未だに具体化されていないことなどを認識していただいたように思います。また、総合県交渉(8月30日)においては、「みんなと一緒に高校で学びたいという希望に応えるために教育局として、どのようなことができるか研究する必要がある」というお答えでした。

障害のある生徒の立場に立って、障害による不利益をなくし、より公正・公平となるよう具体策を出してください。吉井英樹くんは、受験時の必要な配慮がなされず、定員内不合格にされる、一般社会の理解の範囲の「公正・公平」により不合格にされるといった多くの不利益を被り、二年間の浪人生活を余儀なくされました。このような状況が再度繰り返されることのないよう、また新たに受験する生徒もそのような状況に陥れることのないよう、よろしくお願い致します。

1. 前回の話し合いの中で、他県の例も参考にして、校長が受け入れを進める根拠となるように、具体策がないか検討してみたいというお答えでした。具体策を示してください。

2. これまで出された定員内不合格は障害から来る理由によるものであり、2001年の確認にある“それ相応の明確な理由”にあてはまらず、不利益そのものです。2001年の確認を進めていくために、このような理由を認めて定員内不合格を出すことの内容に高校長を指導してください。

3. 単位や進級問題を理由に受け入れを躊躇する例があります。受け入れ校の具体的な配慮の例を伝えたり、県としての考えを示して指導してください。

4. 本人の要望に沿った受験上の配慮を行うようにしてください。回答を選択式にすることができないのであれば、選択問題をふやしてください。また、「障害のある生徒の…」通知について知らされていないという声がよく聞かれます。県民全体に公開する方向で検討してください。

5. 高校で共に学ぶことへの理解を広げるために、親・本人・支援者らと協働で企画する研修会を実施してください。話し合いの時間を有効に使うために、また参加者が理解しやすいように文書での回答をお願いします。



誰でも参加できるイベント情報



11月11日(日) 「障害があっても みんなと一緒に学びたい」

13:30~16:00 浦和コミセン (浦和パルコ10階)

問い合わせ:048-737-1489

20日(火) 部落解放埼玉県研究集会

13:00~ 上尾市文化センター 上尾市上尾 村750. Tel, 048-774-2951

障害者の自立と人権分科会で わらじの会のメンバー等の報告あり 問い合わせ:090-4938-8689

21日(水) どの子ども地域の公立高校へ・県教育局交渉

14:00~17:00 北浦和・労働会館(北浦和駅徒歩10分)問い合わせ:048-737-1489

23日(祭) 見沼田んぼ福祉農園 収穫祭

12:00~ 見沼田んぼ福祉農園(食器持参)

問い合わせ:090-3479-0731

越谷・春日部方面から一緒に車で行きたい人は 問い合わせ:048-737-1489

12月 1日(土)~2日(日) 越谷産業フェスタ2007

10:00~16:00 越谷市総合体育館周辺

問い合わせ:048-964-2111(市役所)

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会のブースあり 問い合わせ:048-964-1819

9日(日) 共に働く街を創るつどい2007 主催・職場参加をすすめる会

13:00~ 越谷市中央市民会館5階会議室

問い合わせ:048-964-1819

13日(木) 越谷市新障害者計画を推進する会(107の会)

13:00~ こばと館(越谷市中央市民会館1階) 問い合わせ:090-2202-5271

23日(日) わらじの会「みんな一緒にのクリスマス」(予定)

まだ会場をはじめ詳細未定。近日中決まります。 問い合わせ:048-733-2743

